

# 若竹



(通算第 119 号)  
第 074 号

2022 (令和 4) 年 5 月 12 日 : 発行  
〒725-0023 竹原市田ノ浦三丁目 2-6  
社会福祉法人若竹会「若竹編集室」  
TEL0846-22-4440・3090

桜散り、緑生い茂る今日この頃、皆さまいかがお過ごしでしょうか？ 世の中は規制が緩和され GW で各地が盛り上がり、with コロナという政策でウイルスとうまく共存する方法を模索しています。その中でも、戦争や円安など世の中は騒がしく、忙しそうです。

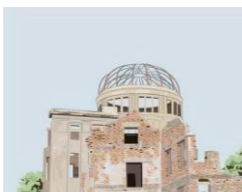
私は、規制が緩和されたとはいえ、2年ぐらい外出していないので、すっかり出不精です。出ても TSU ☆YA に行くくらいです…元からだったかな？

戦争についてもワイドショーで偉い人が騒いでるだけで、平和ボケした日本ではあまり実感が沸きません。広島に住んでいるので“核”という言葉には“ピリッ”とするけれど、それだけです。

世の中、暗い話題ばかりで、明るい話と言えば……う～ん、町が少し賑やかになったくらいですかね。私の周りでは……。

とは言え、皆さん、規制が緩和されていますが基本の感染予防はしっかり行いましょう。

それでは、また。5/7 Y.T



ゴールデンウィークも終わり普段の日常生活が始まりました。若竹もカレンダー通りの休みでした。他の人は「長く休みたい」と思ったそうだけど、僕には適度なお休みで、楽しめました。

新型コロナの感染者もゴールデンウィーク前から、地域にもよるけど増えたり、減ったりしています。全体で見ると減っています。去年のゴールデンウィーク中は、緊急事態宣言が有りの休みだったので、今年みたいに楽しめませんでした。今年は制限なしの休日で、テレビとかのニュースを見ると、各地で観光する方や、ハワイに旅行する方も居て、それなりに楽しんでる様子でした。ただ、心配なのはゴールデンウィーク後の新型コロナ感染者数です。増えるんだろうなあ～と思っています。

コロナ禍になって、三年目ですが、基本の手洗い、うがいを忘れずに。

出先ではアルコール消毒を心がけ感染予防していきましよう。そして、コロナ禍でも、経済を回して楽しましよう

5/7 T.H



## ゴールデンウィークはどのように過ごしましたか？

- ☆ 友だちと遊んだ
- ☆ 自然と戦っていた
- ☆ 実家に帰って買い物をした
- ☆ 音戸へ行った
- ☆ 早朝、人気のないバンブーで遊んだ
- ☆ インドカレーをテイクアウトした
- ☆ 昼まで寝て、買い物をした
- ☆ 畑、読書、ゲーム、TV
- ☆ 家で過ごし、時々買い物
- ☆ お墓参り
- ☆ 朝市の手伝い
- ☆ YouTube、寝るの毎日
- ☆ いつもと同じ
- ☆ ブルーレイデッキ購入
- ☆ 連休は百姓仕事
- ☆ 散歩
- ☆ コンビニで買い物
- ☆ 孫と遊んだ
- ☆ 孫守りをして洗濯物をいっぱい干した
- ☆ 朝日山で弁当を食べた



## 世界情勢の急転を身近に考える

若竹会後援会副会長 児玉忠則



今、ウクライナを侵攻しているロシアとは、面積は米国・カナダ・中国の 1.7 倍、日本の 4.5 倍もある大国で、人口 1 億 2 0 0 万人の内 8 3 % がロシア人、ウクライナ人は 2.4% など多くの少数民族が集う多民族国家であり、政治運営は難しい所からも、独裁者による専制的な統一がされやすい。

日本は人口減少、少子高齢社会の世界最先端を行く国として、今後共、15 歳以上 65 歳未満の生産年齢人口減少が加速する中で、海外からの移住者の迎え入れが避けられず、将来は、従来の単一民族間で通じたあうんの呼吸は薄れ、多言語が溢れ、考え方や生活習慣の違いからいざこざも度々起こる可能性がある。今後、異文化の受入・理解に柔軟性を持ち、これをうまく取り込んで、飲み込めるような姿勢が必要だが、その前に自らがシッカリとした価値観を持ち、主体的に生きて行き、障害者を持つ方々に対して、誰にでもありうる個性のひとつとして違和感を持たない姿勢が望ましい。移住してきた外国人に対しても、同じ国で暮らす市民として受け入れて「多文化共生社会、ユニバーサル社会の先進事例」を世界に向けて発信すべきと思われる。不肖私も後期高齢者の一人として、若者中心文化には違和感が大きくありイノベーションによる急速な社会変化にはついて行けず、せめてリノベーション程度の穏やかな世の中の成長・変化を希求している。

さて、多くの市民・一般人が沢山犠牲となっている、ウクライナとは…30 年前まで、ロシアもウクライナもソビエトという国を構成する 15 の共和国の 1 つ。ソビエト崩壊後、15 の構成国は、それぞれ独立して新たな国家としての歩みを始めた。そこで、かの、プーチン大統領はウクライナを“兄弟国家”と呼び、「強い執着」がある。一方、ウクライナはそうした“兄弟国家”はなくなっており、ソビエトが崩壊してからこの 30 年間で、当初はあいまいだったウクライナ国民という意識が作りあげられたということだそうです。

ロシアと隣接するウクライナ東部はロシア語を話す住民が多く、ロシアとは歴史的なつながりが深い地域。一方、ウクライナ西部は、かつてオーストリア・ハンガリー帝国に帰属し、ロシアからの独立志向が強い地域であり、同じ国でも東西はまるで分断されている状況。さらに、NATO=北大西洋条約機構の“東方拡大”基調があり、NATOへの加盟を望む国が相次いだことにロシアが危機感を持ったのが今回の発端の一つです。

陸続きで国が割拠するユーラシア大陸ならではの緊張感や四海を海に囲まれた我々日本人とは比較にならない緊張感が漂うが、日本が巻き込まれないように、我々も、国際感覚の涵養が望ましく、複雑な国際情勢を正しく読みとり、これを他山の石とするか？ 反面教師とするか？ 限られた人生を有意義に過ごすべくお互いに「学びあう機会が望ましい」と思います。今回の戦争が一刻も早く終結して、戦争犠牲者がこれ以上でないことを強く願う所です。 以上

### 若竹会役員一同

- 理事長 脇田 恵子
- 理事 井口 哲彦
- 理事 山内 英明
- 理事 吉田 豊
- 理事 大石 睦子
- 理事 竹田 博
- 監事 升元 恵三郎
- 監事 中尾 泰美

### 若竹会評議員一同

- 評議員 亀尾 善熙
- 評議員 中本 普己
- 評議員 白石 台造
- 評議員 吉本 郁子
- 評議員 増田 正人
- 評議員 久保田 寛子
- 評議員 黒田 望

### 若竹会後援会役員一同

- 会長 日谷 博光
- 副会長 竹鶴 紘子
- 副会長 児玉 忠則
- 理事 中尾 泰美
- 理事 山本 晋児
- 理事 宮本 幹三
- 理事 竹前 勇二